

No.	ビジョン懇談会委員からの意見 (拡充...拡充に向けての意見、自由...自由意見)	連携中枢都市（高松市）の現状と、今後の連携の見通し
1	（拡充）中小企業経営力強化事業 ・経営合理化や近代化の促進とあるが、経営者自身の経営方針の変化や強化が持続可能な中小企業経営につながってくるのではないかと考える。小さなオーナー企業の経営者は日々会社の存続に向けて経営課題を抱えているが、M & A や買収などの決断にはなかなかつながっておらず、企業数が激減する可能性もある。そこで、ベンチャー企業の誘致やスタートアップ企業の支援などを通して、地域の中小企業の強化につなげていく機会を創出していただきたい。	経営者にとって、変化し続ける社会情勢に即した経営戦略を立てることは、経営の方向性を見定める際に重要であり、高松市では高松商工会議所と共催で、中小企業診断士や社会労務士等を講師とした経営に特化したセミナーを開催し、経営者にとって必要な労務・法務管理の知識、顧客が求めるニーズの分析や経営手法の再考のノウハウなどの情報を得る機会を設けています。 また、創造性に富む発想や独自性のある技術を活用した新規事業者等の支援を目的に、「高松市創造支援センター」を四番丁スクエア内に設置するほか、高松市創業支援等事業計画に基づく創業塾の開催や個別相談等を実施し、起業・創業の促進を支援しています。 今後とも、圏域内の中小企業等の経営力強化を図りつつ、起業・創業の促進を行ってまいりたいと存じます。
2	（拡充）現在東讃地域（東かがわ市・さぬき市・三木町）を中心として、地域の工場見学を行うオープンファクトリー「CRASSO」を行っています。今年の秋には、CRASSO Vo.4として、高松市を含めた広域での開催となります。地域の事業者同士がつながるだけでなく、観光客の誘致や事業発展にもつながる取組だと思っており、今後はさらに地域を広げての開催を予定しています。そのため後援や費用面も含めて、さらに後押しできるような取り組みを期待します。	高松市では、今年度、高松市の伝統的ものづくりである香川漆器と庵治産地石製品を対象とし、地域一体型オープンファクトリーを実施予定です。高松市のオープンファクトリーは、後継者の発掘と事業者間ネットワークの構築を目的として実施するものではありませんが、今後、まずは情報発信における相互連携を通じて、圏域での各オープンファクトリーの認知度向上に繋げていくことを検討してまいりたいと存じます。
3	（自由）「選ばれる圏域づくり」「持続可能な圏域づくり」のためには、何よりも「圏域全体の経済成長」が必要と思いますが、そのための施策が弱いように感じます。 事業番号1,4,5あたりはまだわかるのですが、その他は経済成長のイメージが湧かないように思います。イの「産業クラスターの形成、イノベーション実現、新規創業促進、地域の中堅企業等を核とした戦略産業の育成」を体現するような施策が求められるのではないかと思います。	高松市では、高松市創業支援等事業計画に基づく創業塾の開催や個別相談等を実施し、起業・創業の促進を支援している。また、令和6年度からは、「高松市中小企業等成長促進事業」と題し、中小企業等における需要開拓の促進、労働力不足・課題解決及び環境変化への対応に関する支援を新たに実施しています。 高松市内での起業・創業の促進や成長を志向する市内中小企業等を後押しすることで、圏域での経済活性化を図ってまいりたいと存じます。
4	（自由）【コミュニティアセットの可能性を広げる】商店街の空き店舗、個人の空き家、統廃合等で使われなくなった公共施設などの問題を、増加コミュニティの資源（アセット）と捉え、全国的、世界的にも様々な試みと成功事例が多く出始めています。例えば、管理に困っている空き家を地域で所有または安価で借り上げ、改装し、転貸しすることによって、家賃収益＋にぎわい促進を図ることができます。効果としても「空き家の利活用」「新規事業者へのステップアップ支援」「新規店の増加」「移住希望者へのアピール」「新たな街づくりのための資金捻出」など、様々なメリットがあります。以前、訪れたことがある例では、10年以上空き家となっていた古びた小さな病院が、若者向けのお洒落なお店が10店舗以上入り、観光名所にもなっていました。家賃も安く、1ターンUターンの効果もあるそうです。ぜひ、圏域においても、コミュニティアセットの可能性を更に広げて頂き、成功事例の実績については、圏域全体で情報共有し、圏域全体が強化されていければと思います。	高松市では、高松中央商店街（高松兵庫町商店街、高松片原町西部商店街、高松片原町東部商店街、高松丸亀町商店街、高松ライオン通商店街、高松南新町商店街、高松常磐町商店街、高松田町商店街）の区域に所在する空き店舗に新たに开店する創業者に対し、その开店に係る経費について補助を実施しています。 引き続き、空き店舗の利用を促進し、高松中央商店街のにぎわいを創出するとともに、成功事例の実績がありましたら、圏域全体で情報共有に努めてまいりたいと存じます。
5	（拡充）MICEの開催件数はコロナ禍以前に回復し、現在更なる誘致を目指し、高松市の優位性を様々な機会を通してアピールしているが、アフターコンベンションとして、近隣市町の歴史的・文化的魅力をPRできる資源等の情報提供をいただくことで、ユニークベニューの活用やエクスカッションにも活かすなど、主催者の選択肢が広がるだけでなく、より一層広域連携が図ることができる。	現状、高松市のMICE開催支援補助金制度の対象である直島町、綾川町、三木町については情報提供を行っていますが、それ以外の市町に関しては主催者側への情報提供が十分ではないものと存じます。 今後、各市町の歴史的・文化的魅力をPRできる資源等の情報を、誘致訪問若しくはMICE開催時に主催者及び参加者への情報提供を行ってまいりたいと存じます。
6	（自由）少子化のため、今後の医療を支える看護師の更なる不足が懸念されます。（地元の学校を卒業、資格取得後に県外に就職する方も多い）Uターンを考えている人の相談窓口、引っ越し就職した場合の助成金なども実施している自治体もあるようです。都会で技術を身につけて地元に戻る人が増えれば、地元の医療レベルの向上と充実につながると考えますが、いかがでしょうか。 医療関係以外のいわゆるエッセンシャルワーカー確保の取組みは、圏域内でおこなわれているのでしょうか。	高松市では、地域医療を支える看護師の確保や育成につながるよう、地元医師会が運営する看護師等養成所の運営に対し、支援をしているところでございます。 また、大都市圏を中心に全国からの移住相談に対応するため、東京の「ふるさと回帰支援センター」を活用した移住相談や、連携市町が協力した移住相談セミナー等を実施しているほか、東京圏からの移住を促進する補助制度等を実施しています。就職相談を伴う移住相談の際には、香川県が設置する就職・移住相談窓口や高松市が連携する人材サービス事業者等において、求職相談や就職支援等を実施しています。 医療関係以外のいわゆるエッセンシャルワーカー確保の取組の一例として、保育士の関係では、香川県福祉人材センターを活用した保育士確保事業を行うなど、県と連携を図りながら、保育士の確保に取り組んでいます。 このような中、国において、保育士の配置基準の見直しや、「こども誰でも通園制度」の実施に向けた検討を進めていることから、今年度から、新たに、即戦力として期待される潜在保育士の復職を支援するための就職一時金の支給や、働き続けることができる職場環境を整えるため、保育現場のICT化を推進するための助成等に取り組んでいます。 今後においては、更なる保育士確保のため、圏域や県等とも連携をしながら取り組んでまいります。
7	（拡充）ICカードの利用データの利活用 電車バスの移動データなどを行政や他事業者へ積極的に共有・連携し、利活用することで公共交通の利用促進、地域経済の活性化、地域課題の解決につなげる取り組みを行っていく。	高松市では、鉄道を基軸とした現行バス路線の再編により、将来にわたって持続可能な公共交通ネットワークの再構築に取り組んでいます。このような中、バス路線の再編に当たっては、ICカードの移動データを活用し、需要に合わせた供給の最適化を図っております。 こうしたICカードの移動データの活用方法や効果を連携市町と共有し、公共交通の利用促進や地域課題の解決につなげてまいりたいと存じます。

No.	ビジョン懇談会委員からの意見 (拡充...拡充に向けての意見、自由...自由意見)	連携中枢都市（高松市）の現状と、今後の連携の見通し
8	（拡充） 高校生の通学定期乗車券の全額補助 子育て世帯の流出や高校に対する志願者の減少、教育水準の低下やさらなる人口流出を抑制することで、多くの高校生が行き交い街に活力や魅力が生み出されるほか、交通機関の利用を促すことで、交通事業の持続可能性の向上が期待できる。また、公共交通機関を利用することにより通学時の交通事故の減少にも寄与できる （先進的な事例として神戸市が2024年2学期から実施） https://www.city.kobe.lg.jp/a64411/kosodate/seshonen/kokoteiki/kokoteiki.html	高校生の通学定期乗車券の全額補助を実施した場合、御意見のような効果が生じることが期待される一方で、その実施に当たっては多額の事業費が必要になることが想定されます。 報道によりますと、神戸市においては、大阪府が行った高校授業料無償化の影響により、神戸市内の高校への進学者が減少するとの危惧から当該事業の実施に踏み切ったとされています。 高松市は、神戸市のような状況ではなく、直ちに同様の事業を実施する予定はありませんが、引き続き、高校生等の若年層を含む住民を対象に、公共交通の利用促進を図ってまいりたいと存じます。
9	（拡充）例えば、「遠隔医療ネットワークを使った連携事業」や「地域包括支援センター運営事業」といった取り組みは、双方の取り組みを共有することでより効果的な事業が行えると考えます。医療と介護を分けて考えるよりも、福祉も含めて、医療・介護・福祉を一体として考える方が効率的に思います。	みんなの病院においては、入院患者の円滑な入退院支援が行えるよう、入院決定時から看護師・薬剤師・医療事務等が介入し、当該患者の生活・介護状況等の聞き取りを行っています。入院後は、適切な治療を行いつつ、地域医療・患者支援センターが中心となって、医師・看護師・MSW・リハビリ・薬剤師・管理栄養士などの多職種によるカンファレンスを実施し、必要に応じて介護施設や行政機関（福祉部門）とも連携する中で、患者・家族の状態・状況に応じた退院先の選定などの退院支援を行っています。今後とも、医療・介護・福祉を総合的に判断し、適切な退院支援を行ってまいりたいと思います。 「地域包括支援センター運営事業」では、圏域内の市町において情報交換会を開催し、医療・介護・福祉の分野において包括的に支援をすることを目的に、センター業務を効果的に運営するためのノウハウの共有や課題の検討を行っているため、引き続き本事業を継続してまいります。
10	（拡充）「がん検診の広域利用事業」について、現在「子宮頸がんと乳がん検診」のみのようですが、それ以外のがん検診はどうされているのでしょうか。この二つに限定されている理由をお教えいただきたいです。	子宮頸がんと乳がん検診につきましては、直島町の無料クーポン券対象者の方から直島町外でも受診が可能かといった問合せがあり、高松市内で対応可能な病院のキャパシティも問題なかったため、高松市医師会・直島町・高松市で三者協議を行い、実施することになったものです。 一方、大腸がん・胃がん・肺がん検診については、直島町にて集団検診を実施しており、直島町のみでの対応が可能と思われることに加え、高松市内で対応可能な病院のキャパシティにも問題があるため、広域利用事業の対象にはしていません。 がん検診につきましては、今後も直島町と情報共有しながら、必要に応じて連携してまいります。
11	（拡充）高松市の環境学習や出前講座のお手伝いをしているが、高松市以外への出前講座はまだない。市が主催の環境学習では多少市外からも参加あると思う。環境に特化した内容でなくても瀬戸内海を舞台に自然体験型の学習、例えば磯の生き物観察などを体験することはシビックプライド醸成にもなるし、圏域外からも受け入れれば関係人口の増加にもなる。（香川県・香川大学、かがわ里海大学参照）また、ひとり親家庭のこどもたちなどが参加しやすい形式にすることで、体験格差を是正し、活力ある未来に繋がると感じます。	高松市においては市民が環境について関心を持ち、理解を深め、環境を意識した行動を促すため、環境活動団体等と協力して、出前講座や環境ワークショップ、自然観察体験など、多様な環境学習を積極的に実施しております。 環境総務課が主催する環境学習については、連携市町にも情報共有を行った上で、各市町のHPにイベント情報を掲載していただくなど、連携市町からも御参加いただいております。 御意見をいただきました、ひとり親家庭の子どもたちなどが参加しやすい体験事業につきましては、支援団体等を所管する関係部署等を通じて主催講座や出前講座等の情報を提供することで、参加のきっかけづくりをしていきたいと存じます。 引き続き、子どもから大人まで幅広い世代の方に環境学習に参加していただき、自分たちの身近な環境問題について考えていただくことで、環境保全意識やシビックプライドの醸成につながるよう、関係機関、関係団体等と連携しながら、環境学習の充実を図ってまいります。
12	（拡充）環境負荷の少ない自動車の普及促進事業 小豆島エリアでは、持続可能な観光地に選ばれている観点から、自然環境に負荷のかからないEV車やPHV車の普及が今後の観光・防災対策にもつながってくるのではないかと考える。災害発生時から一日でも安心な生活環境の復旧などの対応が遅れることが予想されるため、バッテリーとしての機能も車両に搭載されることで、車両だけではなくEV充電器又はステーションの普及が急がれるのではないか。また来年度、行われる瀬戸内国際芸術祭や大阪万博に向けた観光客の増加の観点からも、環境に配慮された車両が多く配備されることで、先進的な取組をしている地域として注目されることが重要であり、充電サービスを必要とするお客様が多く来られることなどから、早急な対応が現在以上に必要になってくるのではないか。	高松市においては、電気自動車の普及について、パネル展示などでの普及啓発を始め、道の駅への急速充電器の設置や家庭における充給電設備の導入補助を行うなど、環境整備による普及促進も図っています。また、現在、公用車に電気自動車を16台導入しています。 今後とも、「瀬戸内国際芸術祭2025」や「大阪・関西万博」の開催を見据えながら、電気自動車等の更なる普及促進方策等についての情報共有に努めてまいります。
13	（自由）日常生活の中で、まちづくりという言葉はよく聞くようになったものの、若い世代から働く世代までの多くが、まちづくりとは何をするものか理解や認識の差が大きくある。地域のことを考える機会の創出や興味を持ってもらえるような事業を展開することで、シビックプライドの醸成につながってくると考えるが、自分たちの住んでいる地域の良さや面白さを生活の中で実感できる機会を作っていただきたい。 住んでいて心地よいところやこのエリアで育ったことが宝物であるという実感を持ってもらうことがその地域に住み続ける選択となり、地域の活力となる。 未来を見据えた取組や事業がより重要なものとなることを伝えていく機会の創出が持続可能な地域となると考えるが、生活の中で実感する体験が重要だと考える。	放課後FACT-ory～「子どもの学びを地域で支える」を循環させる地域学習プラットフォームサービス～の推進事業におきましては、圏域の企業・団体等の情報や子どもの職場体験等の機会を提供する「地域学習プラットフォーム」を構築することとしており、子どもが圏域の企業・団体等の活動を深く理解し、働く人との交流の活性化を図ることで、シビックプライドの醸成やUターン就職の促進につなげてまいります。 また、高松市におきましては、若者世代の市政への関心を高めるため、市長と若者世代との意見交換会の開催や、子どもが地域のよさに目を向け、地域を紹介する「子どものシビックプライド醸成事業（高松プライドプロジェクト）」の実施、まちづくり動画の制作等を予定しており、圏域の市町におきましても、それぞれが、住民のシビックプライドの醸成を図る、各種施策・事業を推進しております。 今後におきましては、御意見を踏まえ、より一層、地域の良さや面白さを生活の中で実感できる機会を提供し、全ての住民のシビックプライドの醸成を図りながら、圏域住民が暮らしやすいと思える圏域づくりを目指してまいります。

No.	ビジョン懇談会委員からの意見 (拡充...拡充に向けての意見、自由...自由意見)	連携中枢都市（高松市）の現状と、今後の連携の見通し
14	（自由）バスの大幅減便により、市町をまたいで医療機関に通院する人に不便が生じているかどうかの検証はされるのでしょうか。乗合タクシーについての施策は。	高松市内を走る路線バスについては、長期的な利用者の減少や運転手不足、さらには運転手の業務時間の制限が厳しくなる、いわゆる2024年問題により、現状の運行を維持することが困難となり、本年4月1日から全体的に大幅な減便となっています。このような背景に鑑みますと、今回の減便は、市域全体のバスネットワークを維持・確保するための措置であり、やむを得ない措置であると考えています。 このような中、高松市では、需要に合わせた供給の最適化を図る交通モードとして、タクシー車両を活用した「バタクス」の創出に向け、実証事業に取り組んでいるところです。現在のところ、特定の利用態様に係る調査は予定しておりませんが、連携市町と「バタクス」の情報を共有するとともに、公共交通空白地域への水平展開など、バス路線が減便した地域における移動手段の維持確保に努めてまいりたいと考えています。
15	（拡充）メイン道路の信号が変わるタイミングが悪く、少しの距離の走行でも信号で停止する回数が多いように感じています。そのため、渋滞を招いたり、少しの距離しか進んでなくても長く運転している感覚があります。渋滞緩和や観光客の快適なドライブのためにも、信号が変わるタイミングを見直してみてはいかがでしょうか。	信号機の制御に関しては警察の所管であるため、香川県警交通規制課にその旨をお伝えいたしましたところ、具体的な場所を御提示いただければ現地状況を踏まえ検討することです。 なお、警察としては、信号の繋がりが良すぎるとスピード超過による事故の危険性が高まることから、あえて繋がりを悪くし、路線によってはスピードセンサーによりタイミングを切り替えている所もあるとのことでした。 また、高松市も参加しております香川県渋滞対策協議会においては、平成24年度から県内の主要渋滞箇所を設定しその解消に向けて右折レーンの延伸、停止線の前出し等の主にハード面での渋滞対策の検討・実施を行っており、引き続き渋滞解消対策について、関係者と連携して取り組んでまいりたいと存じます。
16	（拡充）「ブランド農産物育成支援事業」に大変興味があります。香川に来たとき、多くの農作物が作られていることを知り、わくわくしました。食事は生きていくうえで欠かせないものです。圏域内での地産地消を目指して、イベントや飲食店との連携強化、スーパー等との連携も可能ではないでしょうか。	圏域内での地産地消の促進を目指し、毎年2月にサンメッセ香川で開催している「たかまつ食と農のフェスタ」において連携市町へも協力を依頼し、8団体からの出店がありました。 また、スーパーや飲食店との連携については、今後検討してまいりたいと存じます。
17	（拡充）「アグリ・スマートシティ」実証実験プロジェクト 離島各エリアでも人口の減少に伴う農業従事者の減少から、地域での地産地消の機会が失われていることを実感しているが、都市部人材とのマッチングにより、交流人口の拡充につながり、年間2回～3回又は地方に滞在しながら地域資源の発信や新規就農の機会につながるよう連携できないか。(オープンファクトリーツアー)高松空港の離発着回数を観光需要だけでなく、貨物需要を増やすことにもつながり、より地域経済循環の機会につながるのではないか。また、海外に向けた輸出機会にもつながることから香川の食材のブランド形成の機会に活かしてもらいたい。	現在、交流人口に留まらない関係人口の創出・拡大に向けて、地域と大都市圏人材の効果的なマッチング手法の確立、プロジェクト実施地域の拡大に向けて、関係団体・事業者と継続的に協議しています。今年度の実証事業は数地域ですが、今後は、御提案いただいた主旨を踏まえながら、実証フィールドの拡大、大都市圏の人材とのマッチング機会の増加による関係人口の拡大に努めてまいります。
18	（自由）瀬戸・高松広域連携中枢都市圏での取り組みは、3市5町の地域住民に広く知ってもらうことで連帯感や士気が高まると思われます。そこで、「瀬戸・高松広域連携中枢都市圏」という名称を短く、親しみやすい略称のようなものを作ってはいかがでしょうか。	令和元（2019）年11月の瀬戸・高松広域連携中枢都市圏推進委員会において、「瀬戸・たかまつネットワーク」の愛称が決められており、高松市ホームページ及び瀬戸・高松広域連携中枢都市圏ポータルサイトでも周知しているところでございます。今後も引き続き愛称の周知に努めてまいります。